

## 胡桃沢

1987年8月1日

L4

河内川橋のたもとに車を置き、林道を歩いて胡桃沢出合へ向かう。7:35胡桃沢橋から下の沢に降りて、遊行を開始する。

まずは歩きづらいゴロである。すぐに二俣。右の本流の方が5:1くらいで水量が多い。その後、ナメが断続して出てくるが、さして変化のない沢である。コンテの混みぐあいからいっても、そう滝は期待できないだろう。所々に木材の切り出しの時に使用したワイヤーが放置されていた。

源頭部まで2時間半の遊行。予想したように大きな滝はなく、1mほどの滝が3つあっただけであった。

源頭部の二俣から、右にルートをとる。上部はスラブである。途中から右手の支尾根に取り付くが、勾配がきつく、スラブとヤブが交互するいやらしいやせ尾根である。菱沼さんにザイルで確保してもらって、危険地帯を突破する。

急な傾面を登りきると、二俣温泉から大白森山への登山道へ飛び出す。小雨の降り続くうっとうしい一日であった。一路、二俣温泉に向け、下山

開始。2時間程かけて、車をデポしておいた河内川橋に帰り着く。

(記・

[タイム] 河内川橋(7:15)→胡桃沢橋(7:35)→遊行終了(10:10)→登山道(11:25)  
→二俣温泉(12:10)→河内川橋(13:25)

## 穴沢右俣，中俣，左俣

1987年8月22日

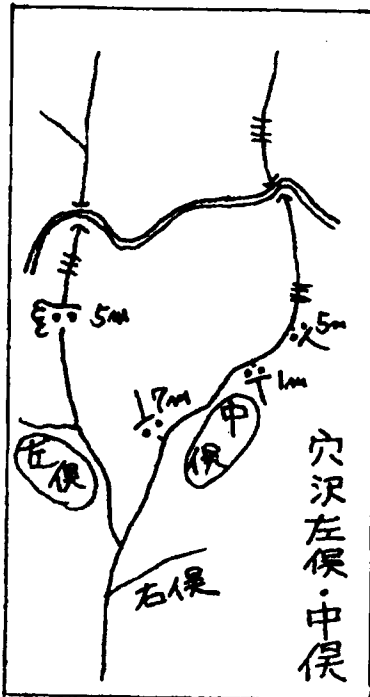
夏合宿でやり残した穴沢に入る。穴沢橋のたもとにピバークして、早朝より遊

行開始。

15分程遡ると二俣。ここまでは全く平凡。左俣が本流のようであるが、まずは右俣の遡行から始める。

沢の規模も小さく何もないうまま終りになるのかと覚悟していたら、5分ほど遡った所で滝が出てきた。5m。ナメ状だが、表面に小さな凸凹があるだけで、ホールドはない。左岸を小さく捲いて越える。このあとまた3mの滝。ここもホールド乏しく、フリクションをいっぱいにかかせて登る。その先の3mを直登すると、この沢の核心部は終わる。

やがて右岸が伐採地となり、まもなく沢は倒木で埋まるようになる。水流はまだあるが、細いミソ状の流れでしかないので、ここで遡行終了とし、伐採地に上がる。



右俣終了後、林道を歩いて中俣出合へ。中俣の林道より上部には小さなナメがあっただけで、全く平凡であった。林道より下部に期待して下降を続けたが、滝などひとつもないままに左俣との出合、続いてすぐ右俣との出合であった。

中俣との出合から15分程の間は、河原が続くだけで、全く平凡。やがて前方に滝が見えてくる。5m。下部は土砂で埋まっており、もとはもっと落差があっただろう。ホールドは豊富で、簡単に直登する。

このあとは平凡となり、やがて林道。林道より上部も平凡。しばらく遡ってみたが、ブッシュが出てきたうえ、両足が強くなってきたので、終了とする。

(記)

[タイム] 穴沢橋(5:40)→二俣(5:50)→右俣終了(6:25)→中俣出合(7:00)→中俣終了(7:35)→左俣終了(8:10)